

## 編集後記

本号では、日本原子力研究開発機構の横溝英明理事から、『原発事故に直面して』と題する巻頭言を頂きました。当財団も原子力情報のシンクタンクとして展開と使命を負ってきていますのでこの示唆に富む内容に心より感銘します。

また、当財団が、日本原子力研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構とともに開発・整備に携わってきたPHITSコードに関して、核工学・炉工学ユニットの岡嶋成晃氏と同ユニット 原子力標準ソフトウェア開発グループの坂本幸夫氏から、『原子力標準ソフトウェア開発グループの設立について』と題する論文で原子力標準ソフトウェアとしてPHITSコードの普及に関して論旨を頂き、放射線防護研究グループの佐藤達彦氏から『PHITSコードの公開と開発の現状』と題する論文で、PHITSコード開発のロードマップを、また、JT-60安全評価グループの助川篤彦氏からは、

『PHITSコードのトカマク型核融合試験装置への適用』と題する論文で、我が国も参加している国際核融合実験炉ITERへの適用のための研究事例を頂きました。さらに、当財団の業務にも関連の深い安全研究センターの中村秀夫氏から『熱水力安全解析コードの開発に関する我が国と海外の動向』と題する論文で、我が国における安全評価のコード開発について考察して頂いた。このように当財団の業務に関連の深い高度情報科学技術分野でのご研究、専門家のご協力を頂き、刊行の運びになりましたこと、厚く御礼申し上げます。

改めて、この度の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆さま、原発事故で非難を余儀なくされている皆様には、心からお見舞い申し上げます。一日も早く復旧と更なる復興をされますよう、お祈り申し上げます。 (中村)